

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

# 学報

平成14年 9 月 事務局総務課発行 第193号

## 遠山文部科学大臣来学



(関連記事34ページに掲載)

## 目 次

会 議	第 5 回運営諮問会議の開催.....	3
学位記授与式	平成14年度 9 月期学位記授与式 挙 行 .....	5
国際交流	中国 - 東北林業大学および <sup>ハルビン</sup> 哈爾濱工程大学 - 訪問記.....	6
	慶尚大学校工科大学との短期交流研修の回想.....	10
寄 稿	米国ワシントン大学滞在記.....	14
入試関係	平成15年度大学院入学試験の実施.....	18
	平成15年度編入学試験( 学力試験による選抜 )の実施.....	18
	オープンキャンパス( 大学説明会 )の実施.....	18
研究助成	平成14年度文部科学省在外研究員決定.....	19
	平成14年度国際研究集会派遣研究員( 第Ⅱ期 )決定.....	19
	平成14年度( 財 ) 栗林育英学術財団研究助成金交付決定.....	19
	平成14年度( 財 ) 北海道河川防災研究センター研究助成金交付決定.....	19
	平成14年度( 財 ) クリタ水・環境科学振興財団研究助成金交付決定.....	19
	平成14年度ノーステック財団研究開発助成事業補助金交付決定.....	20
	平成14年度民間等との共同研究の受入状況.....	20
	平成14年度受託研究の受入状況.....	21
	平成14年度奨学寄附金の受入状況.....	21
人 事	住所変更等、海外渡航.....	22
	人事院勧告.....	25
受 賞	二俣正美教授 高温学会溶射特別賞を受賞.....	30
	伊藤知恵子助手 国際電波科学連合総会で Young Scientist Award を受賞...31	
学 会 等	電気学会研究会開催の報告.....	32
諸 報	学長主催特別講演会の開催.....	32
	「おもしろ科学実験」開催.....	33
	遠山文部科学大臣来学.....	34
	北友会主催レクレーション行事.....	34
	訃 報.....	36
規 程	北見工業大学地域支援連携室設置要項( 北工大達第20号 ).....	37
	北見地域連携推進協議会要項( 平成14年 8 月 1 日制定 ).....	38
日 誌	7 月・ 8 月	

\* 住所変更等については、9月10日まで掲載しました。

## ＝会議＝

## 第5回運営諮問会議の開催

(総務課)

去る7月31日(水)本学第一会議室において第5回運営諮問会議が開催されました。会議では、常本学長の挨拶及び委員の紹介の後、会長、副会長が選出されました。次いで、常本学長から諮問事項の説明の後、本学の法人化に向けた取組みについて説明があり、その後、諮問事項である「法人化に向けた本学のあり方」について活発な意見交換が行われました。

会議要録は以下のとおり

## 第5回北見工業大学運営諮問会議要録

出席者 五十嵐 力 五十嵐建設(株)代表取締役  
 神田 孝次 北見市長  
 熊谷 秀男 東京電波(株)代表取締役社長  
 高橋はるみ 北海道経済産業局長  
 丹保 憲仁 放送大学長  
 戸田 一夫 北海道電力(株)取締役相談役  
 森本 正夫 北海学園北見大学長  
 吉村 宣夫 北見工業大学同窓会長

欠席者 五島 哲 東京急行電鉄(株)取締役調査役  
 小林 護 野村興産(株)イトム力鉱業所  
 常務取締役所長

会議開催にあたり、学長挨拶の後、運営諮問会議委員及び本学関係者の紹介があった。

## 会議概要

審議に先立ち、会長及び副会長の選出については学長が進行することが了承された。

## 1 会長及び副会長の選出について

学長から、会長及び副会長は北見工業大学運営諮問会議規程第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により選出することとなっている旨説明があり、審議の結果、次のとおり選出された。

会長 丹保 憲仁

副会長 熊谷 秀男

## 2 法人化に向けた本学のあり方について

学長から丹保会長に対し諮問書が手渡された後、丹保会長が議長となり審議が進められた。

議長から、本件の審議にあたり本学の法人化に向けた取組みについて説明願いたい旨提案があり、大学側から、資料に基づき次の項目について説明があった。

## (1) 本学の法人化に向けた取組み(学長説明)

## 主な意見(・は大学側説明)

議論をして結論がでないということがないよう、きちんとした大学運営を行ってもらいたい。北海道の地域的なロケーションを生かし、魅力あふれる大学をつくるためにも、道外に試験場を設けたりして全国的にアピールするようなことを考えてほしい。これらを踏まえ特色ある大学作りをお願いしたい。

- 学生向けに大学案内という冊子を発行したり、インターネットで本学の大学紹介ビデオが見られるようにしたり、道外試験場の設置も現在検討中である。

運営の面での財務担当、労務担当の検討は行っているのか。

- 残念ながらガイドラインのないところは、まだ触れていない。今後の対応となる。

監査役は常勤の監査役を雇用する余裕はないはずだから、非常勤にならざるを得ない。今から候補をしぼっておかないと他にとられることになる。早手回しに考えておいてください。

- 再編・統合の議論を進めてきたが、今の時点では平成16年4月の独法化に合わせた議論はできなくなってきているため、本学独自の対

応を考えなくてはとっている。  
 国立大学法人像があまりはっきりとしない。  
 やってみて失敗したらどうするのか。民間ではそうはいかない。今は独立行政法人という言葉が独り歩きしている観があり、制度を変えることは良いが発想も大胆にしてほしい。方向性が出せれば賛成である。アジアの諸国は日本の教育制度を参考にしている。日本がおかしな改革をしたらアジア全体がおかしくなってしまう。そうなってしまうと、大胆な改革をしても国民全体の支持を得られなくなってしまう。

### (2) 中期目標・中期計画( 鮎田副学長説明 )

#### 主な意見

独法化で大変良い例と思われるのが、経済産業省の産業技術総合研究所(以下、産総研)である。産総研あたりは6年間の予算をみて単年度ごとに概算要求をする。予算の取り方がどうなるかは産総研が先にスタートしているのでみんなで注視している。予算獲得と中期計画の関係はどうなっているのか。  
 産総研は6年間の中期目標を持っていても、国に対する予算要求は国の会計年度が単年度であるため、1年毎にならざるを得ない。一方で民間等のお金も入ってくるので場合によっては1~3年等色々なものがあって、そういったものを組合わせてマネジメントを行っている。産総研での事務の取扱いに関して参考になることがあれば事務方を札幌へ派遣いただければ対応したい。

### (3) 教育に関する目標と措置( 高橋副学長説明 )

#### 主な意見(・は大学側説明)

成績に応じたクラス編成は大変難しい。学生の受取り方の評価が低いと不満を漏らすことになり、逆に評価が高いと慢心し勉強しなくなる。ある程度必要だとは思いますが教育方法として考えておかないと企業に入ってから使い物にならない。

- 本学では数学、英語で大きく幅があるように聞いている。いいものは伸ばし、低いものは底上げをすることであり、今後クラス分けは十分検討していきたい。

金沢工業大学はすごいシステムを持っていて、学生のどこに穴があるのかコンピュータで追跡調査を行っている。入ってくるレベルは決して高くはないが、1年経つとかなり成長してくる。このシステムでかなり穴が埋められるのではないか。

独法化にあたり、財務のベテランをつくりなさい。企業は儲けが出なかったら切腹ものだが、大学は教育7、財務3くらいの割合で行ったほうが良いと思う。教育に合理主義はなじまない。金沢工業大学の卒業生を数人採用しているが、事務方が非常に熱心に学生の特徴を訴えてくる。事務方の熱意で大学は活性化するので、独法化はいいチャンスだと思っている。

法人化で固有の事務官を採ることができるかもしれない。教務・学生指導は教官だけでは成り立たない。特にAO入試などは、神様のような事務官がいないと成り立たない。北見工大にこの人ありという事務官が10人もいれば劇的に変わる。今の国立大学には財務、労務の専門家はいない。教務の専門家もない。法人化にむけてクリアーしてほしい課題である。

- 金沢工業大学は魅力ある大学のランキングで上位にランクされていて、本学でも注目しており今後参考としたい。

金沢工業大学の夢考房は24時間開いており、専任のスタッフも常駐し、自分のやりたいことができる。大きなスペースではないが、常時開いているということが肝心なことである。ある大学では教員と職員に対して、学生を指導する資格を設けて職員の7~8割はその資格を取得しないと教務ができないというシステムをとっている。大学としては学ぶべきシステムだと思う。教務の専門家は国立大学にはいない。専門家を育てる環境としては、北見工大のようにサイズの大きくないところは

チャンスかもしれない。

#### (4) 地域貢献についての目標と措置(大島附属図書館長説明)

##### 主な意見

現在建設中の総合研究棟にインキュベーション施設ができると聞いたが法人化により、当該インキュベーション施設をその企業の本社として登記ができると聞いている。それにより細かなサービスの提供と地域への貢献ができる可能性が広がってくることとなる。

統合については、旭川医大と統合して理念がきちんと持てるのか。大学が特色を持つには、教職員がどれだけ熱意を持って取り組んでいるかにかかっている。ただ統合しただけでマイナス面が出ないか見極めが大切。北海道大学は大学院の重点化がはっきりしている。北大のリーダーシップの問題もあるが、地域の大学から北大との役割分担を議論してほしい。そうでないと中途半端になってしまう。まず地場の基本的技術力をつけることから始めてほしい。

医学と工学の結合はあり得ると思う。旭川医大は北大工学部と組むよりは、こちらと組んだほうが組みやすいだろう。組むことにより高いレベルでなくてもドクターも出るだろう。大学院で工夫すれば存在感のある大学になるだろう。

行政と行政内部の研究、政策の方向性も含め共同研究をしており、市の事業予算を決めることも本学と相談しながら行っている。産学官連携で大変ありがたい状況になってきている。また、市から産学官推進員も専従者を配置して行っている。既存の業者と官の研究の連携だけではベンチャーの立上げは難しい。大学の知恵をお貸し願いたい。また本学の学生がどんどん地域に入って行ってベンチャーで独立していけるよう援助したい。たとえば市役所だけでなく、自前で情報システムを作ることは非常に難しい。非常に高い金を払って外注するケースが多い。たとえば、北見工大でそれを引受け、ある程度研究開発したなら、市の職員が大学院の学生となって自らがシステムを作り上げていくこともできるのではないか。欧米では当たり前のシステムであるが、日本では別々のシステムで動いているので非常にもったいない。市と一体となって仕事が出来れば良いと思う。

以上の意見交換の後、議長から、本日の会議のまとめは会長、副会長に一任願い次回の本会議で確認することをご了解願いたい旨の発言があり、審議が終了した。

審議終了後、学長から謝辞が述べられ閉会した。

## ＝学位記授与式＝

### 平成14年度9月期学位記授与式挙行

(総務課)

平成14年度9月期学位記授与式が、9月18日(水)午後3時から、学長室で行われました。

今回の授与式は、副学長、事務局長等が列席する中、博士後期課程修了者(物質工学専攻)外川純也氏及び論文博士 謝晋<sup>しえしん</sup>氏に対し、常本学長から学位記が授与されました。



## ＝国際交流＝

中国－東北林業大学および<sup>ハルビン</sup>哈爾濱工程大学－訪問記

留学生教育相談室講師 菅野 亨

## 1. はじめに

本年7月8日から7月12日にかけて5日間という短い期間ではありましたが、初めて中国を訪問する機会を与えていただきました。目的は、東北林業大学（ハルビン市）の創立50周年式典に出席および、ハルビン工程大学を表敬訪問することでした。昨年3月厚谷前学長、常本学長、鈴木教授（化学システム工学科）、山岸教授（留学生教育相談室長）が東北林業大学を訪問、北見工大との交流協定が締結され、その交流協定を受けた式典への招待でした。また、ハルビン工程大学との“学生交流に関する覚書”の更新時期になっていることもあり、一層の学術・教育の交流を推進するための表敬訪問でした。鮎田副学長と、ハルビン工程大学出身で鮎田先生の研究室院生の毛継澤氏（土木開発工学専攻2年）に菅野が同行するという形で3人での訪問でした。そこで、この紙面をお借りし中国訪問の報告をさせていただき、また初めての中国に対する私個人の感想、印象を述べたいと思います。

## 2. 日本から北京へ

成田から北京への飛行時間は3時間30分あまりで、女満別を10時20分に発って日本を離れたのが17時25分であったことを思えば、本当にアジアは近いというのが実感でした。北京空港から外に出たとたん、むっとする熱気と車や工場等から排出されていると思われる異臭を感じました。しかし毛さんの友人の方が迎えに来てくれておりましたので、エアコンが効いているタクシーにスムーズに乗ることができました。空港から北京の市街地までは広くて立派な高速道路を走って約40分、快適なドライブでした。その夜はホテルにチェックイン後、近くのレストランで中国のビールを楽しみました。翌日は、ハルビンに発つまでの間北京市内をまわること

ができました。ホテルから天安門までの道は、日本の都市以上にきれいな町並で、写真1のような街の美化活動・政策が徹底されていました。



写真1 北京市街の美化スローガン

天安門広場の近くにある故宮博物院は、インターネットから得た情報によると、“古くは紫禁城と呼ばれ中国明清王朝の皇宮、中国現存の最大にして最も整った古代帝王宮殿群、明の永楽4年から18年（1406～1420）にかけて築営され、現在に至るまで実に500年余りの歴史を有する。その面積は72万m<sup>2</sup>、部屋は9,000室余り、建物は折重なる如く建築され、四方は高さ10mの城壁と幅50m以上の濠で取り囲まれている。”とあり、世界文化遺産にも指定されている中国最大の博物館です。一つの門を通るとまた次の門と宮廷が見えてくる、それが10回前後続いたと思いますが、まさに中国の歴史の重みを感じる大博物館でした（写真2）。それから、



写真2 故宮博物院（ほんの一部です）

日本でもおなじみのファーストフードの看板を目にしながらか北京の中心街を少し歩き、夕方空港へ向かいました。

### 3. ハルビンにて

北京空港からハルビン空港までは約1時間40分、東北林業大学の方々に空港まで車で迎えていただきました。私たち3人の他に、それぞれ東大と京大から来られた日本人の先生方も一緒でした。車が向かったホテルは大学側が国内外からの来賓のために用意してくれたホテルで、中に入るとまるで学会の受付のようにチェックインを行いました。

翌朝、迎えにきたバスに乗り大学へと向かいました。私たちのグループの他に、韓国人、フランス人、フィンランド人、ポーランド人そして前日お会いした日本人の先生方もおりました。大学に到着後、大学の歴史等を示す展示物、掲示物を見て回りました。国際交流コーナーには、北見工大（以後本学）との交流協定締結の写真も展示してありました。その後、本学からのお祝いの品をお渡しする時間を作ってください、副校長の呉国春副教授に直接お目にかかることができました（写真3）。



写真3 呉副校長先生と（東北林業大学）

50周年式典は大学の屋外のスタジアムで行われ、私の名札付きの来賓席も用意されておりました。フィールド内には赤、青、黄色の帽子とポロシャツに統一した大勢の学生さんが座り、非常に華やかな雰囲気でした（写真4）。また酷暑の中、着ぐるみのミッキーがさかんにあいそを振りまいていました。式典では、来賓の方



写真4 上 式典への来賓を歓迎する横断幕  
下 式典会場における学生達  
（東北林業大学）

が次々に挨拶され、その中には江沢民国家主席の妹さんが共産党からの来賓として来られていました。式典終了後にはゲストハウス内において、曹罕副校長先生や、東北林業大学の先生方と10数名で2テーブルを囲んで昼食をとりました。写真5、写真6は、昼食後の李堅校長先生、曹副校長先生とのショットです。

昼食後は、キャンパス内にある野生動物資源学院や花卉生物工工程研究所等を見学しました。花卉生物工工程研究所を案内してくださった所長でもある李王花教授は日本への留学経験があるとのことで、日本語とハンゲル語を駆使して日本人と韓国人に通訳無しでいろいろと説明してくださいました。



写真5 李校長先生と  
（東北林業大学）

翌日の午前中は大学がセッティングしてくれた市内観光ツアーに参加しました。ハルビン市は、



写真6 曹副校長先生と  
(東北林業大学)



写真7 聖ソフィア聖堂

中国東北三省の遼寧省、吉林省、黒竜江省の中で最も北に位置しロシアとの国境にある黒竜江省の省都で、900万人以上の人口を有する大都市です。歴史的にロシアの影響が強く、さまざまな欧風建築物が残っており、東方のモスクワと言われているそうです。代表的なものとして聖ソフィア聖堂があります(写真7)。また、文化的・民族的には韓国・朝鮮との関係も非常に深く、街の中心部ではハングル語で書かれた看板のレストラン

が目立ち、ホテルではハングル語放送のチャンネルもありました。さらに、日清戦争から第二次世界大戦にかけて、この街を舞台にして日本が関わるさまざまな悲劇が起こったのはご存じのとおりです。

午後からは、ハルビン工程大学を表敬訪問しました。邱長華校長先生、張曙副校長先生をはじめ、8人の先生方に迎えていただきました。また、昨年本学へ学生を引率されて来られた張銘鈞教授、高胤義先生のなつかしいお顔とも再会することができました。邱先生が日本に来られた時のことや、サッカーのワールドカップなどなごやかな雰囲気でお話が進みました(写真8、9)。校長先生方は今年の9月に東京の電気通

信大学の国際ワークショップに参加のため来日、そのおりに本学に立寄り正式に新たな協定書及び覚え書に調印する予定であるとのこと(8月現在)。先生方との再会を約束して、大学の用意してくれた車で1時間ほど市内観光をしました。夕食後ハルビン空港へ向かい、北京空港に到着したのは22時過ぎでした。



写真8 邱校長先生と(ハルビン工程大学)

#### 4. 雑感

初めての中国の印象を述べると、思っていた以上に経済的に繁栄しているということでした。デパートには大量の商品があり、平日の昼間でも大勢の買い物客で混んでいました。帰国後すぐ本屋に行き中国関係の本をさがしたところ、「チャイナ・インパクト」大前研一著(講談社、2002年3月発行)という文字が目飛び込んできました。それによると、中国の国内総生産は現在カナダを抜いて第7位にランクされており、経済成長率は2001年で7%を超え、世界のなかできわだって高い数字であるとのこと。また新聞報道によると、中国のある民間シンクタンクは、中国の製造業は2015年には日本を、2030年にはアメリカを抜いて世界一になると予測しています。12億以上もの人口を持つ国と同列の比較が適切なのかわかりませんが、とにかく現在中国はもう経済大国と言えるのではないかと思います。しかし、中国に詳しい山岸先生や留学生の話によると、中国沿岸部と内陸部・農村部との経済格差は大きく、広大な中国の現況をひとくくりに論じるのは無理があるとも言えます。

大学に関しては、日本のトップ30ならぬ中国



100重点大学政策（211プロジェクト）により、その規模がますます大きくなっているそうです。それから恥ずかしい話ですが、中国の大学の授業料は無料だとずっと思っていたのですが、そうではなく中国人の平均給与水準からみた授業料は日本よりずっと高いそうです。また、経済発展に伴い欧米で学位を取得後中国に戻る人が増加しており、就職に関してもきびしい競争があるようです。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださった常本学長、鮎田副学長、山岸先生に感謝いたします。この経験を生かして本学と東北林業大学、ハルビン工程大学との交流促進に、微力ながら寄与できることを願っています。また、渡航にあたって煩雑な事務手続きをしていただいた総務課、西田学事法規係長に御礼申し上げます。そして、土産物のディスカウントを



写真9 張副校長(右)と王副教授(通訳)  
(ハルビン工程大学)

含む外部との交渉を一手に引き受けてくださった毛氏に感謝致します。それから、中国で私たちを暖かく迎えてくださった東北林業大学、ハルビン工程大学の先生方にも、この場をお借りして深謝致します。

## 慶尚大学校工科大学との短期交流研修の回想

化学システム工学科助教授 星 雅之

8月18日(日)

午前11時ごろから、新千歳空港1階国際特別待合室付近にこの研修に参加する学生たちがひとり、またひとりと集まってきた。男子9名、女子2名の構成で、1人が学部1年であとは4年と修士の学生たちである。彼らを引率する教職員は、高橋副学長、落井教務課長補佐と私の3名で、いよいよ7泊8日の研修が始まる。

この待合室付近で偶然にも山岸教授一行とお会いした。彼らは中国の新疆ウイグル自治区へ旅立ち、我々一行はコリアンエア766便で韓国へ。およそ3時間のフライトの後、仁川(インチョン)国際空港へ到着。

入国審査を終え、おのおのバックやケースを持って到着ゲートを出ると、北見工業大学のステッカーを掲げているロッテ観光の通訳案内員、金さんが待っていた。仁川国際空港からソウル市内のホテルまでバスで約1時間、彼女は観光案内と韓国事情について達者な日本語でほとんど話し続けていた。

我々が宿泊したホテルは市庁のすぐそばで、ガイドブックによると一級(その上は特一級と特二級)にランク付けられていた。ホテルで少し休んでから、学生たちはいくつかのグループに分かれて、夕暮れのソウルの街へでかけて行った。教職員3名も夕食を求めて、韓国の新宿あるいは銀座と呼ばれている明洞(ミョンドン)にある韓国料理店に足を運んだ。そこでは日本語がある程度通じ、メニューも日本語が併記されていたので、日本人がある程度いるだろうと予想していたが、驚いたことに日本語の中に混じって韓国語が聞こえてくるという状態であった。旅行の注意事項の中に、“水道水は飲料に堪えないのでミネラルウォーターを飲むように”があったので、コンビニで購入しホテルに帰った。

8月19日(月)

モーニングコールが午前5時30分にけたたましく鳴り、慌ただしく身仕度をしてロビーで学生たちを待っていると、みんな眠そうな様子でエレベーターから出てきた。

バスで金浦(キンポ)空港へ行き、朝食をとってから8:05発の晋州(チンジュ)行きのジェット機に乗った。約1時間後に晋州空港に到着し、慶尚大学校工科大学副学長の馬教授、同大学の文助教授(通訳)、同大学姜行政室長らに出迎えていただいた。

大学のバスに乗って約15分、大学の正門(慶尚大学校の学生たちはマクドナルドのロゴに似たそのアーチの形からマックと呼んでいるらしい)をくぐると、左手の歩道と芝生の上に歓迎北見工業大学の横断幕が見えた。工科大学長の朴教授は海外出張のため不在で、馬教授が我々をお世話して下さった。

さっそく講義室で同大学の学生たち(チューター)を含めて歓迎会をしていただいた。馬教授と高橋副学長の挨拶の後、北見工業大学からの赤富士の絵を慶尚大学校工科大学に寄贈した。大学のレストラン(新しい建物)で歓迎会出席者がランチをとった後、学生たちはそれぞれのホームステイ先に分かれて行った。(写真1)



写真1

我々引率者は宿泊先の同大学のゲストハウス(5階建、25室以上ある、2000年秋に竣工)ま

で、馬教授と同産業大学院副院長邊教授の自家用車に分乗して送っていただいた。お二人とのコミュニケーションは英語で、両先生とも流暢な英語を話された。晋州滞在中、我々3人はほとんど馬教授の自家用車で送迎してもらった。いろいろとお世話していただいた馬教授に感謝の意を伝えると、“This is my job.”であった。

高橋副学長は102号室、落井課長補佐と私は205号室で、部屋の設備等に関して簡単な説明を受けた。約30㎡の広さに玄関、バスルーム、台所があり、二人用の食卓テーブルと椅子、机と回転脚椅子、洋服箆笥、ベッド、テレビ、冷蔵庫とエアコンが、ベランダには全自動洗濯機もあった。研究者等の夫婦が長期滞在できるように設計されていたので、落井さんと私はダブルベッドで5泊しなければならなかった。

部屋に荷物を置いてから、通訳の文助教授の自家用車で市内観光に連れて行ってもらった。晋州市は人口約32万人、慶尚南道（キョンサンナンド）の古都である。この日は我々にとっては暑い日であったが、地元の人にとっては夏としては過ごし易いと言っていた。蝉の鳴く晋州城を見て歩いた。この城は1,700mの石城で壬辰倭乱（文禄・慶長の役）当時、7万余名が亡くなった護国の聖地であり、ここから南江の流れを挟んで南側の市内が見渡せる。きれいな芝生の上をリスが走り、百日紅の花が青い空に映え、良く手入れされた市民の憩いの場であると思われる。ここでも日本人に出会い、少し立ち話をした。

次に、人工湖で各種レジャー施設を備えた晋陽湖を見た後、市内の韓国料理店で我々3人の歓迎会をしていただいた。馬教授、邊教授、文助教授のほかに、李教授と崔教授が加わった。崔教授は内燃機関の研究者で、また我が大学の創立40周年記念式典に出席されておられるので、常本学長のことを良く知っておられた。また、東京工業大学に留学されていたので、日本語は達者で、この宴会の2人目の通訳として日韓の潤滑油的存在となっていた。この料理はどれもおいしかったが、生カルビが一番印象に残っている。（写真2）



写真2

高橋副学長と私のどちらが年長者かが、話題に上った。これに関しては、後日同じ質問が2～3回あったが、どの場合も私が年長者に見られるという結果となった。年齢の話が落井課長補佐に振られ、還暦である旨を伝えたところ、誕生日はいつかとの質問がでた。実は、今日8月19日であると答えたら、李教授はすかさず仲居さんにバースデーケーキを持ってくるように頼んだ。そして、宴会の最後はバースデーパーティーとなり、和気あいあいのうちにお開きとなった。李教授の計らいは韓国の遠来の客を迎える姿勢の一部を見たような気がする。

ゲストハウスに送っていただいて、シャワーを浴びベッドに入ったのが、おそらく午後11時ごろ。長い一日であった。

8月20日（火）

朝8時に馬教授が迎えにくるので、少し早く部屋を出てゲストハウスの前庭で回りを眺めていると、北海道にはいないツクツクボウシが盛んに鳴いていた。竹や百日紅があり、本州の夏という感覚である。

馬教授といっしょに学生寮の食堂で朝食をとった。ゲストハウスのすぐ傍に、レンガ造りで4階建ての学生寮が何棟もあり、大きな新しい寮が一棟そして建設中の寮が一棟見えた。大きな食堂で、まず、ステンレス製の食器盆（お子さまランチのように、食べ物を入れるところが仕切られている）にご飯、ステンレス製のカップに入ったスープ、そして数種類のおかずを順

次のせていく。したがって、メニューは必然的に日替わり定食ということになる。韓国での食事にはやはり必ずキムチが付く。どのキムチも思った程辛くはなく、あっさりとして食べやすかった。

9時から工科大学建築科の高教授による「韓国の建築」（通訳を介して）、11時から師範大学日本語教育科の安教授による「韓国の文化」の講義を拝聴した。日本と韓国の伝統的な建築様式の違いは、太くてまっすぐな杉や檜が入手できる日本と比較的細く曲がっている木材しかない韓国の違いだと述べられていた。

日本語と韓国語の類似と相違について、また苗字についてなど、流暢な日本語で興味深いお話がきけた。韓国の姓は金、李、朴の3つで約70%を占めるそうで、現在実際に使用されている姓は約300前後とか。これに対して日本は、実際に使用されている姓は約12～13万であるということはこの講義で初めて知った。したがって、韓国では学生の出席をとる時は、日本のように苗字だけではたいへんなことになるそうだ。

昼食後、慶尚大学校総長朴先生を表敬訪問した。朴総長と高橋副学長の挨拶を工科大学学生の曹君が通訳してくれた。その堂々とした曹君の姿は、私がこの研修でもっとも感心したシーンのひとつである。曹君は10月から北見工業大学電気電子工学科に短期留学することが決まっている。

その後、炎天下のキャンパスツアーを徒歩で行った。夕食は中華料理店で馬、邊両教授と曹君とやはり日本語の上手な工科大学の女子学生韓さんとで楽しいひと時を過ごした。高橋副学長と私は馬教授に連れられてカラオケボックスへ。そこには、前学長の金教授が待っておられ、日本と韓国の歌を一人一人歌って大いに盛り上がった。韓国の人は歌と踊りが好きと聞いていたが、それは本当のようである。

8月21日（水）

前日と同様に朝食をとってから、9時から学生の韓さんを講師として日本語のできる学生さんたちがチューターとなり、「韓国語基礎」、

11時から崔教授による「韓国の産業」の講義を拝聴した。韓さんは10月から慶尚大学校と交流がある島根大学に短期留学することが決まっている。

昼食後、大学のバスで晋州市庁へ赴き、市長を表敬訪問した。あいにく市長は公務で不在であったが、河副市長が我々一行と会ってくださり、河副市長と高橋副学長の挨拶の後、立派な市庁建物をバックに河副市庁とともに記念撮影をした。

晋州市西方（直線距離で約70km）の順天（スンチョン）市にある安楽邑城民族村に向かった。そこは1,410mの城郭をもち、朝鮮時代の役所と9棟の重要民族資料、民家群などの民俗景観が見事に保存されており、風俗や伝統的生活文化を守ってきた村の人が現在も生活している民俗村である。

急いでそこを見学して、晋州に引き返した。馬、崔両教授とともに伝統的な韓国料理をいただいた。

8月22日（木）

午前7時すぎ、馬教授、姜行政室長と事務官一人そして韓国の学生とともに我々一行は大学のバスで慶尚北道（キョンサンブクト）の慶州（キョンジュ）市に向かった。高速道路を走り約3時間（休憩1回）で慶州市に入った。

バスからの景観は、低い山があり、平地は水田が広がっており、ときどき高層アパート群が現われるが、日本の景色とあまり違いがないように思われた。

慶州博物館の駐車場で一人の女性を乗せた。彼女が本日の慶州周辺の通訳案内員を務めてくれる。2年前の交流の時も彼女がガイドになったらしい。まず、山の上にある国宝の石窟庵へ向かった。この石窟は仏教が排斥されてから忘れ去られ、日本が朝鮮を併合してから日本の郵便配達人が発見し、日本が最初に復元したとのこと。

昼食後もいろいろと見学して、晋州飲食店で全員で夕食をとり、バスで大学まで帰って解散となった。

8月23日（金）

午前中はゲストハウスでゆっくりと休み、午後から馬教授と女子学生の韓さんといっしょに見学とおみやげの買い物をした。

6時から晋州のホテルで歓送会と修了式が行われた。崔教授が司会と通訳をしてくださった。立派な修了証書を学生たちだけでなく、引率の我々もいただいた。韓国の学生たちとホームステイ先でお世話になった人たちも出席していて、たいへん和やかな雰囲気時間が過ぎていった。（写真3）



写真3

8月24日（土）

馬、崔両教授、姜行政室長、韓国の学生たちそしてホストファミリーの人たちに見送られて、9：35発の金浦行きジェット機に乗った。金浦空港からロッテ観光の金さんの案内でソウル市内の見学をして午後をすごした。

8月25日（日）

午前6時20分、重くなったスーツケースを持ってホテルのロビーに集合し、インチョン国際空港へ。途中買い忘れたおみやげなどを買って行く。

我々は空港で久しぶりの日本食の朝ごはんを食べ、金さんと別れて出国審査、ウオンを円に両替、そして10：00発新千歳空港行きのコリアンエア765便の機上に。長いようで、しかし凝縮した研修の日々だったように思われる。

## ＝寄稿＝

## 米国ワシントン大学滞在記

電気電子工学科 植田 孝夫

平成12年9月から10ヶ月間、米国 WA 州ワシントン大学電気工学科において在外研究の機会を得た。その印象を以下に記す。

## 1. ワシントン大学

ワシントン大学 (University of Washington, 略して UW と呼ぶ) は米国ワシントン州 (西海岸北部、州都は Olympia) にある学生数 3 万 5 千人を擁する州内最大の大学で、創立は 1861 年と西海岸の大学では 2 番目に古い。日本語で同名の大学が米国ミズーリ州セントルイス (Washington University) にあり、また WA 州の Pullman にもワシントン州立大学 (Washington State University) という名の大学があるが、別の大学である (UW も州立である)。

メインキャンパスはシアトルのダウンタウンから車で 20 分ほど北上した通称 U District と呼ばれる地区にあり、敷地面積は 703 エーカー (2 85 万 m<sup>2</sup>) で、教育・研究関連施設、博物館やアートギャラリー、約 7 万 3 千人収容のフットボール専用スタジアム Husky など、おおよそ 220 の建物からなる。特に目を引くのが、桜並木を始めとする 480 種類に及ぶ世界各国の樹木、高さ 30m 以上吹き上げる巨大な噴水 (Drumheller Fountain) その遠方彼方に聳える Mt. Rainier (標高 4 392m)、また UW の図書館の中で最大で荘厳な雰囲気を持つ Suzzallo Library である。キャンパスのおおよそ 1/3 はレイク・ワシントン湖 (淡水) と、Puget 湾 (海水) を繋ぐ運河に面しており、シアトルの愛称エメラルド・シティーらしい美しいキャンパスを形成している。Tacoma と Bothell に分校がある。

電気工学科<sup>1)</sup> (Electrical Engineering) の建物はこの噴水近くにあり、地上 6 階地下 1 階の真新しい建物で、現在はコンピュータ科学科と共有している。コンピュータ科学 (CSE) の建物は来年の夏に完成予定で、完成時には電気工学



ワシントン大学

科と棟続きの最新設備を備えた建物となる。ちなみに、CSE の建設総額は 7 200 万ドルで、その内 1 400 万ドルが P.Allen 氏 (マイクロソフト (MS) の創設者の一人) による寄付である。その他に、UW には MS 社 Gates 家の名前を冠した建物や基金が多数あり、MS 社のお膝元であることを強く印象付ける。なお、MS 本社はシアトルから車で 40 分ほど北東に行った Redmond にある。

UW の医学、法学、海洋生物、森林、物理、コンピュータ科学などの研究分野はランクが高く、全米各地をはじめ海外からも多くの学生や研究者が集まってきている。ノーベル賞受賞者も輩出している。日本からの研究留学生は圧倒的に医学分野が多い。なお、インターネット上に充実した研究留学サイト<sup>2)</sup> やシアトル情報サイト<sup>3)</sup> があり、日本の滞在者には大変重宝がられている。

シアトルは南樺太とほぼ同じ経度であるが、平均気温は真冬が 5 、真夏は 25 ほどであるが、冬は雨の日が多く 1 週間の内 5 ~ 6 日が小雨である日も珍しくない。人口は州全体で 600 万人弱、またシアトルは約 55 万人である。人種構成は比較的アジア系が多く (15%) キャンパス内で見かける学生の 1/3 はアジア系学生の

ように思われた。主要企業はボーイング、マイクロソフト、アマゾン、スターバックス社などであるが、昨年9月のテロの影響、ボーイング社の次期統合攻撃戦闘機受注競争の惜敗もあって州の失業率は高く、UWの人員削減や学費のアップなどが話題になっていた。

## 2. UW 電気工学科

電気工学科はUWの中では最も大きい学科の1つで、2002年4月の時点で、58名のFaculty、46名のStaffがおり、教授陣のうち19人がIEEE（米国電気電子工学学会）Fellowで、今回お世話になったProf. Chen-Ching Liuもその一人である。学生数は学部生が550名、大学院生が270名の規模で、2001年は26名にPh.D.を、53名にM.S.を、そして164名にB.S.を授与したと聞く。また、私のような客員研究員が14名滞在していた。ただし、学生数は景気によって大きく異なり、景気が悪いとき「大学に戻る」と表現され急増する。例えば、2001年の大学院新入生は前年度の2倍の70人と急増している<sup>(4)</sup>。内訳は海外からの学生が4割、国内の学生が6割である（前年度の割合いと逆転している）。その内、約2割が女子学生である。大学院生の多くはTAやScholarshipを受けており、TAの場合、授業料のおおよそ9割が免除される。なお、2002年の夏期クォータの授業料（18単位）はResidentが\$2,000弱、Non-Residentがその2倍である。また、奨学金については、例えば電力分野では有名なGrainger基金があるが、2002年度にはUW電気工学科では電力系の米国籍学部生7名と院生3名に授与（返還不要）されたが、院生の場合一人当たり\$16,000（200万円）と潤沢である。

学科の主な研究分野は、電力系統、マイクロマシン、通信とネットワーク、集積回路、メカトロニクスと制御、アンテナとリモートセンシング、音声と画像処理である。私の関係する電力・エネルギー分野には6名の教授陣がコミットしており、電気、エネルギー、経済、情報処理などの観点から幅広く研究している。また、他大学や他学科と活発な交流があり、様々な横

断的プロジェクトが進行している。その一つにNEPTUNE（North East Pacific Time-series Undersea Networked Experiments）プロジェクト<sup>(5)</sup>がある。主に、カリフォルニア工科大学のジェット推進研究所UWの応用物理研究所、そして電気工学科の電力分野のメンバー等からなる大型プロジェクトで、北西海岸沖の深海Juan de Fucaプレート上に、3,000kmにおよぶ観測用通信及び電力ネットワークを構築し、深海での様々な海洋実験や研究を遠隔で行なうプロジェクトである。総額は2.5億ドル、研究期間は1999年から2007年で、現在は開発段階にある。



UW電気工学科

## 3. IT 環境

学科内の計算機およびネットワーク環境、特にその支援体制は充実している。数人の専属Staffによって各種サーバの保守・管理やウィルス対策、また利用者の多い電気系ソフトMATLABやSpice等については定期的に講習会が開催されている。計算機設備はMailやWeb等のサーバ以外に、一般利用者用としてWindows系PCルームとLinux系の高速度計算用PCクラスター計算機（1Ghzクラスx30）が用意されている。学内幹線ネットワークはギガビット・ネットですべての学科内は100Mbである。研究を行う上で、このPCクラスター計算機を利用させてもらった。その他に、研究用として各種専用ワークステーションが設置されている。また、ソフトについてはメールやワープロなどの一般系ソフトと技術系ソフトが20種類以上、

学科のソフトとして用意されており、教職員と学生は自由に利用できる。

学科の授業で意外だったのは、カリキュラムにプログラミングの授業がなかったことである。講義では MATLAB を道具として使っており、技術計算の大半はこれで済ませている。研究室の院生を見ていると、MATLAB や他のツールソフトを使っているが、自分でプログラミングしている姿はほとんど見られなかった。プログラミングに興味ある学生は、コンピュータ科学科で受講すれば良いと言うことらしいが、技術計算の初歩的計算を間違える学生の姿も見られた。

米国社会の IT 化は我国より、数年進んでいる印象を強く受ける。キャンパス内を見渡しても、講義録やシラバス、授業評価はもちろん、IEEE 論文誌の WEB 検索<sup>6)</sup>、会議室予約や各種スケジュールなどネット経由で簡単に閲覧できるし実際に活用されており、日常業務や生活の中にしっかり定着している。

#### 4 . Prof. Chen-Ching Liu 研究室

Prof. Liu は台湾系アメリカ人で、電力系統の知識処理やエージェント指向制御、最近では電力系統の市場原理導入によって生じる技術的問題や経済的問題などを幅広く研究している。また、日本国内の研究者とも広く交流があり、この分野のキーパーソンの一人である。滞在期間中に、日本や韓国企業の技術者が訪れ、研究打ち合わせする場面も見られた。研究室には 8 名の大学院生 ( 2 名がアメリカ人、1 名がスウェーデン人、他は韓国、中国人 ) が在籍しており、その他に学外から 1 名ゼミに参加していた。

滞在中に 1 名の韓国学生が無事 Ph.D . を取得し帰国していたが、その審査の様子を拝見できた。審査は公開のプレゼン 40 分、質疑・討議が 1 時間で、その後 5 名の審査委員による審議が 20 分ほどであった。論文テーマは「Intelligent System Methods for Power System Vulnerability Analysis」で、電力系統を不慮の事故から保護するシステム ( 分散型 Energy Management System ( EMS )) に関するもので、現在の EMS の問題点、過去の研究成果、提案アプローチ ( エ

ージェント指向のシステム設計 ) が中心で、全体的に概念的である印象であったが、関連する各手法の概念やシステム全体に対する提案アプローチの位置づけなどはしっかり考察されていた。質疑は、フロアーや各委員から 2 問程度で辛らつな質問は無かった。

#### 5 . 授業風景

建物のちょっとした空きスペースには学生のため(?)のソファやテーブルが用意されており、休み時間の合間にはレポート作成や分厚いテキストを開く学生の姿がある。これはキャンパス全体に言えることで、食事しながらノートをチェックしたり、本を読みながらバスを待っていたり、いつも何かを読んでいる学生の姿が目につく。授業風景は学生の質問や発言が活発であり、他方、教授陣は理論と実際 ( 最近の話題、例えば Enron の破綻 ) を結び付けながら、ジョークを交え丁寧に講義する。学生が少しでも関心を持つよう工夫している印象を受ける。授業は週 2 回 ( 2 時間 / 回 ) 行われるが、内容はすべてホームページ上に公開されており、学生はそれを毎回プリントして授業に出席している。枚数はかなり多く、授業の終わりには分厚いバインダーが一杯になる分量である。また、毎週、ホームワークが与えられ、例えば HW が 20%、中間試験が 20%、最終試験が 60% などの基準で最終的に成績評価される。その基準は事前に公開されている。



Electric Energy Industrial Consortium の様子



## 6. 他のイベント

電気工学科では毎週金曜日の15時に「ソーシャル・アワー」と称する1時間パーティーが催しされる。と言っても、フロアの空きスペースに、コーラとスナック菓子を用意した簡単なもので、狙いは学部生と大学院生、見知らぬ学生同士、または学生と教官らの交流を促進することにあるらしい。しかし、実際にはお腹をすかした学生が集まって来るものの、出身国が同じものや仲間同士のおしゃべりで終わることが多く、見知らぬものの交流までに発展するケースは稀のようであったが、興味ある試みであると思えた。また、同日の16時から毎週エネルギー関連のセミナーが催しされていた。学内外から講師を招き1時間ほど講演してもらう形式で、大学院生には単位認定の授業として開講されている。私は滞在間もなくこのセミナーの講師に招かれ、大学や研究内容を紹介する機会を得た。

その他のイベントとしては、1月に学生を対象とした学科内の研究発表会があった。私が目にしたのは「Electric Energy Industrial Consortium」で、大学院生だけでなく学部生も参加してパネル発表を行い、それを教官や招待企業の人々が採点し、最後に集計し得点順にTシャツやマグカップ、学会参加用航空券などのちょっとした景品を発表者に与えるものである。形式張らず、楽しみながら、かつ真摯に進行するアメリカらしいやり方は、学生に少しでも企業との接点やプレゼンテーションの機会を与え、また同時に

研究分野に興味を持ってもらおうという教育姿勢の現れで、大変参考になった。

帰国間近の6月中旬に Commencement (卒業式・学位授与式) が Husky スタジアムで賑やかに行なわれた。この日はキャンパスのあちこちで、黒のガウンと四角い帽子を被った学生が、家族と一緒に記念写真を撮る光景が見られた。来賓は前国務長官の Madeleine K. Albright であった。

## 7. 最後に

昨年9月上旬に現地入りし、生活のセットアップを完了しない間にNYでテロ事件が起き、一時はどうなることかと思った時期もあったが、その後は順調に滞在できた。現地から、インターネットを介して研究室の計算機環境を利用できたこともあり、日本との物理的距離を意識することは少なかったが、帰国後、うず高く積まれた書類の山を見て、e-Japanにはほど遠い段階であると痛感した。最後に、お世話になった Prof. Chen-Ching Liu 先生を始め、本学教職員の皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

- 1) <http://www.ee.washington.edu/>
- 2) <http://www.kenkyuu.net/>
- 3) <http://www.junglecity.com/>
- 4) Elec. Eng. Kaleidoscope of UW, 2002
- 5) <http://www.neptune.washington.edu/>
- 6) <http://ieeexplore.ieee.org/>

## = 入 試 =

(入学主幹)

## 平成15年度大学院入学試験の実施

平成15年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験が、8月26日(学力検査)、27日(面接)に実施されました。

また、平成15年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験が、8月28日に実施されてました。

各専攻別、各課程別の合格者数等は次表のとおりです。

## 博士前期課程(一般選抜)

専攻名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	16	27	26	22
電気電子工学専攻	16	15	15	11
情報システム工学専攻	16	13	13	13
化学システム工学専攻	14	23	22	17
機能材料工学専攻	10	28	28	22
土木開発工学専攻	20	37	34	33
合計	92	143	138	118

## 博士前期課程(外国人留学生特別選抜)

専攻名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	若干人	2	2	2
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		0	0	0
化学システム工学専攻		0	0	0
機能材料工学専攻		0	0	0
土木開発工学専攻		0	0	0
合計		2	2	2

## 博士後期課程

専攻名	志願者	合格者
システム工学専攻	2	2
物質工学専攻	0	0
合計	2	2

## 平成15年度編入学試験(学力試験による選抜)の実施

平成15年度編入学試験(学力試験による選抜)が7月10日(水)に実施されました。

各学科別の合格者数等は次表のとおりです。

学科名	定員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	若干人	4	4	3
電気電子工学科		4	4	3
情報システム工学科		5	5	3
化学システム工学科		0	0	0
機能材料工学科		1	1	1
土木開発工学科		2	2	2
合計		16	16	12

## 「オープンキャンパス」(大学説明会)の実施

7月27日(土)に大学進学を希望する高校生、高専生、短大生、専修学校生を対象とした大学説明会が開催され、高等学校教諭、父母等を含む89人が参加しました。

高橋副学長から、入学試験に関する説明の後、各学科における実験等の体験学習、学長特別講義を行いました。

体験学習では、専門用語や器材に戸惑いながらも、担当者の説明を受けて、真剣な表情で実験等に取り組んでいました。

## = 研究助成 =

## 平成14年度文部科学省在外研究員決定

(総務課)

## ○長期(甲種)

所 属	職 名	氏 名	派遣先国	期 間	研 究 課 題
土木開発工学科	助教授	早川 博	アメリカ	14.10.15 ~15.8.14	水文流出モデルの確率応答に関する研究

## ○長期(甲種)若手教官

所 属	職 名	氏 名	派遣先国	期 間	研 究 課 題
機能材料工学科	助 手	村田 美樹	アメリカ	14.9.25 ~15.9.11	遷移金属触媒を用いた炭素・ヘテロ元素結合形成反応に関する研究

## 平成14年度国際研究集会派遣研究員(第Ⅱ期)決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	会 議 名	開 催 地	開催期間
機能材料工学科	教 授	青木 清	超急冷および準安定物質に関する国際会議(RQ11)	オックスフォード(イギリス)	14.8.25 ~14.8.30

## 平成14年度(財)栗林育英学術財団研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	教務職員	服部 和幸	第224回アメリカ化学会出席に対する学術交流研究助成	200 <sup>千円</sup>

## 平成14年度(財)北海道河川防災研究センター研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
土木開発工学科	教 授	内島 邦秀	緩和曲線を挿入した河道湾局部の流れと河床形状に関する研究(継続)	1,200 <sup>千円</sup>

## 平成14年度(財)クリタ水・環境科学振興財団研究助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	助教授	堀内 淳一	バイオリアクターによるチーズホエーからの環境調和型融雪剤の微生物生産	800 <sup>千円</sup>

## 平成14年度ノーステック財団研究開発助成事業補助金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	助教授	伊藤 英信	ライムケーキを原料とするシックハウス対応調湿建材の創製	千円 2,000

## 平成14年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	超軽量骨材(ASL)コンクリートの耐凍害性に関する研究	ドーピー建設工業(株)
留学生教育相談室	講師	菅野 亨	高付加価値化を目的とした天然ゼオライト鉱物複合材料の開発	(株)共成レンテム
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	寒冷地における土木構造物の凍害対策に関する研究	北見建設業協会
機械システム工学科	教授	二俣 正美	銅化合物粉末の新規用途開発に関する研究	美瑛白土工業(株)
化学システム工学科	教授	小林 正義	健康建材の高機能化及び複合化に関する研究	ナショナル住宅産業(株)
化学システム工学科	教授	小林 正義	高機能化健康建材の開発に関する研究	大日本塗料(株)
機械システム工学科	助教授	藤木 裕行	防雪柵の耐雪強度測定と構造のシミュレーション	オー・エヌ工業
土木開発工学科	教授	大島 俊之	情報システムを応用した建造物の診断技術開発	(財)北海道科学技術総合振興センター
土木開発工学科	助教授	伊藤 陽司	土留壁の凍上対策設計指針に関する研究	寒冷地工事対策協議会
土木開発工学科	助教授	伊藤 陽司	土留め構造物の凍上対策に用いる裏込め材料の開発	(有)シー・エス・プランニング
機械システム工学科	教授	二俣 正美	新規プロセスによる産業廃棄物の高品質原料化前処理及び高度加工技術の開発	科学技術振興事業団 研究成果活用 プラザ北海道
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	寒冷地における多数アンカー式補強土壁の凍土対策工法に関する研究	岡三リビング(株)
電気電子工学科	教授	谷本 洋	高周波アナログ回路技術の研究	(株)東芝研究開発センター
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	廃EPS骨材を使用したコンクリートならびにポリプロピレン短繊維混入コンクリートの凍結融解抵抗性の研究	(株)シー・アンド・アールコンサルタント
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	送電線腐食の電氣的診断法に関する研究	北海道電力(株)旭川支店

平成14年度累計 61件

## 平成14年度受託研究の受入状況

(会計課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
化学システム工学科	教授	吉田 孝	木炭タールの持続的高度循環活用システムの構築 平成14年6月～平成15年3月	(社)北見工業 技術センター 運営協会	円 2,441,250
	教授	鈴木 勉			
	教務職員	服部 和幸			
化学システム工学科	助教授	山田 哲夫	バイオガスのクリーン・高純度化技術の開発 平成14年6月～平成15年3月	(財)北海道 科学技術総合 振興センター	2,000,000
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	平成14年度 GEMS/Water ベース ラインモニタリング 平成14年6月～平成15年2月	独立行政法人 国立環境 研究所	5,200,000

平成14年度累計 11件

## 平成14年度奨学寄附金の受入状況

(会計課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
機能材料工学科	教授	井上 貞信	「工学研究」に対する研究助成	井上 貞 信	300,000 <sup>円</sup>
留学生教育相談室	教授	山岸 喬	「工学研究」に対する研究助成	(株)カイゲン	700,000
土木開発工学科	助教授	三上 修一	「工学研究」に対する研究助成	(社)日本鉄鋼連盟	100,000
化学システム工学科	助 手	岡崎 文保	「データベース構築の研究」に対する研究助成	三 河 誠	100,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	「道路構造の防災対策の検討」に対する研究助成	(財)北海道道路管 理技術センター	300,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	「工学研究」に対する研究助成	山上マテック(株)	100,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	「寒冷地土木構造物の設計の検討」に対する研究助成	東邦コンサル タ ン ト (株)	300,000

平成14年度累計 31件

## =人事=

## 海 外 渡 航

## ○海外出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
土木開発工学科	教 授	鮎田 耕一	東北林業大学及びハルビン工程大学にて コンクリートの耐久性に関する研究打合 せ (中華人民共和国)	14.7.8 ~14.7.12
留学生教育相談室	講 師	菅野 亨	東北林業大学及びハルビン工程大学にて 天然鉱物材料の有効利用技術に関する研 究打合せ (中華人民共和国)	14.7.8 ~14.7.12
化学システム工学科	教 授	吉田 孝	精密化学と機能性高分子に関する国際シ ンポジウムにて研究成果発表。北京化工 大学招へいによる漆多糖類の生理活性に 関する研究打合せ (中華人民共和国)	14.8.3 ~14.8.10
機械システム工学科	助 教 授	藤木 裕行	第4回世界バイオメカニクス会議出席 (カナダ)	14.8.3 ~14.8.11
機能材料工学科	助 教 授	阿部 良夫	第5回エレクトロクロミズム国際会議出 席 (アメリカ)	14.8.5 ~14.8.12
未利用エネルギー 研究センター	教 授	庄子 仁	バイカル湖メタンハイドレートに関する 調査研究(ロシア、デンマーク、ドイツ)	14.8.6 ~14.8.29
化学システム工学科	教 授	吉田 孝	第224回アメリカ化学国際会議にて論文 発表、NEDO成果普及、世界の専門家 との研究打合せ (アメリカ)	14.8.15 ~14.8.24
化学システム工学科	教務職員	服部 和幸	第224回アメリカ化学国際会議出席 (アメリカ)	14.8.15 ~14.8.24
機能材料工学科	教 授	井上 貞信	第224回アメリカ化学国際会議にて研究 発表。海洋生物学研究所、マギル大学に て微量成分分析に関する研究討論及び視 察 (アメリカ、カナダ)	14.8.17 ~14.9.2
電気電子工学科	教 授	細矢 良雄	第27回国際電波科学連合総会出席 (オランダ)	14.8.17 ~14.8.26
電気電子工学科	助 手	伊藤知恵子	第27回国際電波科学連合総会出席 (オランダ)	14.8.17 ~14.8.26

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	慶尚大学校工科大学との短期交流研修引率 (大韓民国)	14.8.18 ~14.8.25
化学システム工学科	助 教 授	星 雅之	慶尚大学校工科大学との短期交流研修引率 (大韓民国)	14.8.18 ~14.8.25
教 務 課	課長補佐	落井 清治	慶尚大学校工科大学との短期交流研修引率 (大韓民国)	14.8.18 ~14.8.25
留学生教育相談室	教 授	山岸 喬	新疆大学との学术交流 (中華人民共和国)	14.8.18 ~14.8.28
共 通 講 座	教 授	大野 晃	条件不利地域の農村調査(ルーマニア)	14.8.19 ~14.9.13
土木開発工学科	教 授	高橋 修平	国際シンポジウム INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON PHYSICAL AND MECHANICAL PROCESSES IN ICE IN RELATION TO GLACIER AND ICE-SHEET MODELLING に出席。ベルギー大学にて氷河観測の研究打合せ (フランス、ベルギー)	14.8.23 ~14.9.4
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	2002年電気機械国際会議参加及び論文発表 (ベルギー)	14.8.24 ~14.8.30
電気電子工学科	助 教 授	村田 年昭	2002年電気機械国際会議参加及び論文発表 (ベルギー)	14.8.24 ~14.8.30
情報システム工学科	助 教 授	三浦 則明	第19回 I C O 会議にて研究発表 (イタリア)	14.8.24 ~14.9.1
機能材料工学科	教 授	青木 清	第11回超急冷及び準安定物質に関する国際会議及び金属水素系国際会議にて研究発表 (イギリス、フランス)	14.8.24 ~14.9.8
情報処理センター	助 教 授	青山 茂義	国際会議 A P F B 02 (第2回アジア太平洋小数体系会議) にて研究発表 (中華人民共和国)	14.8.26 ~14.8.31
機器分析センター	助 教 授	南 尚嗣	国際会議にて研究発表及び微量元素の定量に関する研究打合せ (ブルガリア)	14.8.29 ~14.9.7
土木開発工学科	教 授	前田 寛之	第10回地すべりに関する国際会議と現地検討会にて研究発表 (ポーランド)	14.9.5 ~14.9.21
土木開発工学科	助 教 授	川村 彰	世界道路協会路面性状委員会出席。ドライビングシミュレーター国際会議出席及び交通事情調査 (オランダ、フランス、ドイツ)	14.9.6 ~14.9.21
化学システム工学科	教 授	小林 正義	工業プロセス革新及び強化に関する国際会議にて研究発表。共同研究プロジェクト推進のための研究打合せと講演 (イギリス、ドイツ)	14.9.7 ~14.9.21

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	第1回革新的土木構造物の構造健全度モニタリング国際ワークショップ (カナダ)	14.9.17 ~14.9.22

## ○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
土木開発工学科	助 教 授	川村 彰	世界道路会議(P I A R C)主催による路面の平坦性試験区間の調査 (アメリカ)	14.7.14 ~14.7.27
情報システム工学科	助 教 授	榮坂 俊雄	I T C - C S C C 2002(回路、システム、コンピュータ、通信に関する国際会議)出席・発表 (タイ)	14.7.16 ~14.7.19
情報システム工学科	教 授	鈴木 正清	バンコク及びプーケット研究討論I T C - C S C C 2002発表・座長 (タイ)	14.7.13 ~14.7.19
電気電子工学科	講 師	川村 武	第10回計算機応用数学国際会議出席・発表 (ベルギー)	14.7.20 ~14.7.26
土木開発工学科	助 教 授	櫻井 宏	コンクリート技術等に関する研究打合せ (韓国)	14.7.24 ~14.7.27
土木開発工学科	助 教 授	高橋 清	A I Tにおいて論文指導及び東南アジアの交通計画に関する研究打合せ(タイ)	14.7.29 ~14.8.6
共 通 講 座	教 授	下村五三夫	国立アダム・ミツケピッチ大学、コペルニクス大学東洋学部での資料収集及び連続講義 (ポーランド)	14.8.25 ~14.9.29



## 人 事 院 勸 告

人事院は、8月8日(木) 国会及び内閣に対して、公務員の給与について報告し、併せてその給与を改定するよう勧告するとともに、公務員制度改革が向かうべき方向について報告を行いました。給与勧告等の骨子は、次のとおりです。

### 給与勧告の骨子

#### ○ 本年の給与勧告のポイント

- ① 官民給与の逆較差( 2.03%) を是正するため、給与勧告制度創設以来初の月例給与引下げ改定～俸給表の引下げ改定及び配偶者に係る扶養手当の引下げにより措置
- ② 期末・勤勉手当(ボーナス)の引下げ( 0.05月分)
- ③ 3月期のボーナスを廃止し6月期と12月期に再配分。併せて、期末手当と勤勉手当の割合を改定
- ④ 年間給与で実質的な均衡を図るため、不遡及部分については、12月期の期末手当の額で調整～平均年間給与は4年連続の減少( 15.0万円( 2.3%))

#### 1. 給与勧告の基本的考え方

- ・ ベア中止、定昇停止、賃金カット等極めて厳しい民間給与の実態を反映して、公務員給与が初めて民間給与を上回るという状況の下、引下げ改定であっても引上げ改定の場合と同様、官民給与の精確な比較により公務員給与の適正な水準を確保することが、情勢適応の原則にかなうものと判断
- ・ 配分については、職員団体や各府省の人事当局の意見を十分に聴取し検討

#### 2 官民給与の比較

約7,900民間事業所の約40万人の個人別給与を实地調査(完了率93.8%)

月例給 官民の4月分給与を調査(ベア中止、定昇停止、賃金カット等を実施した企業の状況も反映)し、職種、役職段階、年齢、地域など給与決定要素の同じ者同士を比較

ボーナス 過去1年間の民間の支給実績(支給割合)と公務の年間支給月数を比較

官民較差(月例給) 7,770円 2.03%〔行政職...現行給与 382,866円 平均年齢 40.9歳〕

俸給	6,427円	扶養手当	618円
はね返し分	412円	特例一時金(廃止)	313円

#### 3 改定の内容と考え方

月例給 官民較差(マイナス)の大きさ等を考慮し、これに見合うよう月例給を引下げ

##### (1) 俸給表：すべての級のすべての俸給月額について引下げ

- ① 行政職俸給表 級ごとに同率の引下げを基本とするが、初任給付近の引下げ率を緩和、管理職層について平均をやや超える引下げ率(平均改定率 2.0%)
- ② 指定職俸給表 行政職俸給表の管理職層と同程度の引下げ(改定率 2.1%)
- ③ その他の俸給表 行政職との均衡を基本に引下げ

特例一時金（年間3,756円（月当たり313円））は廃止

- (2) 扶養手当
  - ・配偶者に係る支給月額を引下げ（16,000円 14,000円）
  - ・子等のうち3人目以降の支給月額を引上げ（3,000円 5,000円）

(3) その他の手当

① 委員、顧問、参与等の手当

- ・指定職俸給表の改定状況等を踏まえ支給限度額を引下げ
- ・高度な能力・識見等を有する人材の確保のため特例的な限度額を設定

- ② 医師の初任給調整手当
  - ・医療職(→) 最高 316,400円 311,400円
  - ・医療職(→)以外（医系教官等）最高 51,600円 50,800円

③ 俸給の調整額 平成8年改正に係る経過措置を廃止し、新たな措置

期末・勤勉手当（ボーナス） 民間の支給割合に見合うよう引下げ 4.7月分 4.65月分

- ① 3月期の期末手当で引下げ（0.05月）
- ② 民間のボーナス支給回数と合わせるため、3月期の期末手当を廃止し6月期、12月期に配分
- ③ 民間の支給状況等を踏まえ、期末手当と勤勉手当の割合を改定（15年度から）

（一般の職員の場合の支給月数）

	6月期	12月期	3月期
本年度 期末手当	1.45月(支給済み)	1.85月(現行1.55月)	0.2月(現行0.55月)
勤勉手当	0.6月(支給済み)	0.55月(改定なし)	-
15年度 期末手当	1.55月	1.7月	廃止
勤勉手当	0.7月	0.7月	-

[実施時期] 給与水準引下げの改定であるため、遡及することなく、公布日の属する月の翌月の初日（公布日が月の初日であるときは、その日）から実施するが、4月からの年間給与について実質的な均衡が図られるよう、12月期の期末手当の額について所要の調整措置

4 地域における公務員給与の在り方

- ・各地域に勤務する公務員の給与水準について、その地域の民間給与をより反映していく配慮が必要
- ・本年は、民間給与のよりの確かな実態把握の観点から、民間給与実態調査について層化・抽出方法を見直し
- ・今後、給与配分の適正化の観点から、俸給制度や地域関連手当等の諸手当の在り方について抜本的に見直し。学識経験者を中心とする研究会を設置し、関係各方面と意見交換しつつ早急に検討

5 公務員給与制度の基本的見直し

- ・職員の職務・職責を基本にその能力・実績等が十分反映される給与制度を構築する必要。現行の労働基本権制約が維持される以上、人事院は今後とも代償機関として、給与勧告、人事院規則の改廃等を通じて、その責務を万全に果たす所存
- ・本年6月に給与制度について大幅に基準化し、本府省の課長・室長への抜擢者は年齢・経験と関係なくポストにふさわしい級への格付けが各省限りで可能。今後とも関係者の意見を踏まえ基準を整備

【その他】

- ・ 公務の活力を維持するため、実績を上げた職員に報いるよう、特別昇級や勤勉手当を活用する必要
- ・ 独立行政法人化の一層の進行に伴い、その役職員の給与水準を国として把握することが必要
- ・ 人事・給与等業務のオンライン化と共通データベース構築によるバックオフィスの電子化推進

【参考】モデル給与与例

(単位：円)

				勸告前		勸告後		年間給与の減少額
		25歳	独身	月 額	年間給与	月 額	年間給与	
係 員	25歳	独身		189,210	3,158,000	185,600	3,090,000	68,000
	30歳	配偶者		243,910	4,053,000	237,300	3,935,000	118,000
係 長	35歳	配偶者、子1		328,010	5,523,000	319,700	5,370,000	153,000
	40歳	配偶者、子2		367,210	6,178,000	358,200	6,011,000	167,000
地方機関課長		50歳	配偶者、子2	490,690	8,155,000	479,360	7,946,000	209,000
本府省課長		45歳	配偶者、子2	685,330	11,821,000	669,060	11,507,000	314,000
本府省局長		-	-	1,148,000	19,576,000	1,123,360	19,076,000	500,000
事務次官		-	-	1,507,520	25,707,000	1,475,040	25,048,000	659,000

行政職俸給表(一)

職員の区分	職務の級	1 級		2 級		3 級		4 級		5 級		6 級		7 級		8 級		9 級		10 級		11 級		
		号	俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
再任用職員以外の職員	1	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
	2	135,100	171,500	192,800	228,700	247,300	268,100	288,000	310,200	346,400	384,600	435,400												
	3	139,500	178,400	200,200	237,200	256,500	277,200	297,600	320,400	358,500	396,900	449,800												
	4	144,000	186,600	207,500	246,200	265,200	286,400	307,500	330,900	370,400	409,300	464,300												
	5	149,200	191,600	215,400	255,300	273,800	295,600	317,300	341,400	382,100	421,700	478,400												
	6	155,000	197,000	223,300	263,800	282,500	305,000	327,300	351,900	393,700	433,800	492,500												
	7	161,000	202,400	231,200	272,300	291,200	314,400	337,300	361,800	405,300	445,800	506,500												
	8	167,300	207,600	238,700	280,700	299,700	323,800	347,100	371,400	417,000	457,100	520,500												
	9	171,900	212,600	245,200	288,900	308,200	333,200	356,700	380,900	428,600	468,300	534,500												
	10	175,600	217,000	251,600	296,900	316,600	342,500	366,000	390,200	439,500	479,100	548,500												
	11	178,800	221,400	257,900	304,700	324,700	351,900	375,100	399,700	449,300	488,700	559,700												
	12	181,600	225,700	263,500	312,000	332,200	361,200	383,900	409,100	458,800	497,500	566,900												
	13	184,300	230,000	269,000	319,100	339,700	370,200	392,400	417,500	466,600	505,000	573,800												
	14	186,400	233,200	274,100	326,000	346,900	379,000	399,400	425,800	473,100	511,900	579,900												
	15	188,500	236,200	279,200	332,100	352,500	386,600	405,000	431,700	479,700	516,400	584,600												
	16	190,100	239,300	283,700	337,700	357,300	392,200	409,800	437,400	484,200														
	17		242,200	287,800	341,400	361,300	397,200	414,000	441,200	488,600														
	18		245,100	291,500	344,700	364,600	400,700	417,600	445,000	492,800														
	19		247,000	294,700	347,900	367,500	404,200	421,300	448,900															
	20			297,100	350,200	370,400	407,600	424,800	452,500															
	21			299,000	352,400	372,900	411,100	428,300	456,200															
	22			301,000	354,700	375,500	414,500	431,900																
	23			302,900	357,000	378,000	417,900																	
	24			304,900	359,200	380,600	421,400																	
	25			306,900	361,600	383,200																		
	26			308,700	363,800	385,900																		
	27			310,600	366,100																			
	28			312,600	368,400																			
	29			314,500																				
	30			316,500																				
	31			318,400																				
	32			320,300																				
再任用職員			150,800	188,600	217,400	254,500	272,000	296,100	313,200	335,000	370,200	405,200	458,500											

行政職俸給表(二)

職員の区分	職務の級	1 級		2 級		3 級		4 級		5 級		6 級	
		号	俸	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
再任用職員以外の職員	1	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
	2	121,200	172,600	190,500	208,700	235,800	264,800						
	3	124,900	178,600	196,500	215,100	242,700	272,200						
	4	128,700	184,600	202,400	222,000	249,300	280,300						
	5	132,500	189,900	208,600	228,700	256,700	288,400						
	6	136,700	195,000	215,000	235,500	263,600	296,800						
	7	141,400	200,200	221,800	241,700	270,300	305,300						
	8	146,200	205,700	227,900	247,600	276,500	313,500						
	9	152,200	211,100	234,100	253,400	282,300	321,500						
	10	158,300	216,300	239,900	259,200	287,800	329,100						
	11	165,500	221,800	245,500	264,600	293,300	336,700						
	12	172,200	228,900	251,100	269,800	298,700	343,800						
	13	178,100	231,700	256,300	274,800	304,000	350,900						
	14	183,600	236,600	261,400	279,800	309,000	357,100						
	15	188,300	241,400	266,300	284,500	313,700	363,200						
	16	192,900	245,500	270,800	289,300	318,300	369,200						
	17	197,400	249,600	275,600	293,300	322,600	374,900						
	18	201,500	253,400	280,200	296,900	326,900	380,200						
	19	205,200	256,600	284,600	300,100	331,000	385,200						
	20	208,200	259,000	288,200	303,000	334,700	389,700						
	21	211,200	261,100	290,800	305,900	338,100	394,200						
	22	214,200	263,100	293,100	308,500	341,300	398,400						
	23	217,100	264,500	295,500	311,200	343,700	401,700						
	24	219,800	266,000	297,500	313,700	346,200							
	25	222,100	267,600	299,500	316,100	348,500							
	26	224,300	269,300	301,400	318,200	350,900							
	27	226,400	270,900	303,200	320,300	353,200							
	28	228,600	272,600	305,100	322,300								
	29	230,500	274,200	307,000	324,500								
	30	232,500	275,800	308,900	326,700								
	31	234,400	277,400	310,800	328,800								
	32	236,100	279,100	313,000	331,000								
	33	238,000	280,700	315,000	333,000								
再任用職員			194,400	206,300									

教育職俸給表(一)

職員の区分	職務の級 号 俸	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級
		俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
		円	円	円	円	円
	1	—	—	255,400	288,700	370,200
	2	161,600	203,800	268,500	303,800	385,600
	3	169,500	212,800	281,400	319,100	398,100
	4	179,700	221,900	295,200	334,300	416,500
	5	190,500	231,700	309,200	349,600	422,600
	6	198,300	241,300	323,100	364,700	434,400
	7	205,800	254,100	336,500	379,800	446,100
	8	213,600	266,700	350,000	391,000	457,700
	9	222,200	279,500	363,100	401,700	469,100
	10	231,800	291,200	373,000	411,500	480,400
	11	239,600	303,300	383,100	420,600	491,900
	12	248,300	315,200	392,800	429,300	503,300
	13	256,500	323,200	401,500	437,800	514,600
	14	264,500	330,200	410,000	445,500	525,900
	15	271,900	336,900	417,700	452,900	536,400
	16	279,200	343,500	425,200	460,100	545,600
	17	286,000	350,000	432,300	466,400	554,800
	18	292,400	355,900	439,500	472,100	563,900
	19	298,800	361,700	445,500	477,600	572,800
	20	304,800	367,400	450,400	483,100	581,200
再任用職員以外の職員	21	310,600	372,900	454,900	488,500	587,500
	22	315,500	378,400	458,000	493,800	592,500
	23	320,100	383,100	461,100	498,900	597,200
	24	324,500	387,100	464,100	502,900	601,900
	25	328,100	390,000	467,200	506,200	606,400
	26	331,200	392,800	470,200	509,600	610,900
	27	334,200	395,700	473,300	513,000	615,400
	28	337,000	398,400	476,400	516,400	619,900
	29	339,200	401,200	479,500	519,800	624,400
	30	341,200	403,900	482,600	523,200	628,900
	31	343,300	406,700	485,700	526,600	633,400
	32	345,300	409,500	488,800	529,900	637,900
	33	347,300	412,400	491,900	533,200	642,400
	34	349,400	415,300	495,000	536,500	646,900
	35	351,400	418,200	498,100	539,800	651,400
	36	353,500	421,100	501,200	543,100	655,900
	37	355,600	424,000	504,300	546,400	660,400
	38	357,900	426,900	507,400	549,700	664,900
再任用職員		241,600	291,300	307,400	340,200	422,800

医療職俸給表(二)

職員の区分	職務の級 号 俸	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級
		俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額	俸給月額
		円	円	円	円	円	円	円
	1	—	—	222,700	245,900	277,400	314,200	347,200
	2	152,800	179,800	229,800	253,200	285,900	323,800	358,900
	3	158,400	183,200	238,000	260,600	294,500	333,900	370,600
	4	164,200	197,500	245,500	268,100	303,000	344,200	382,300
	5	170,400	203,500	252,800	275,700	311,700	354,400	394,000
	6	178,700	209,500	260,200	283,500	320,400	364,200	406,100
	7	187,100	215,700	267,500	291,300	329,900	373,800	418,300
	8	195,800	222,500	274,900	299,300	337,200	383,400	429,700
	9	201,200	229,600	282,300	307,300	344,900	393,100	440,900
	10	206,600	237,900	290,000	315,400	352,500	403,000	451,500
	11	212,100	244,900	297,600	323,200	360,100	413,100	461,900
	12	217,700	252,200	305,300	330,800	367,500	422,400	471,100
	13	223,500	259,600	312,600	337,900	375,100	430,900	479,000
	14	229,400	266,900	319,700	344,900	382,500	439,600	486,800
	15	235,400	274,200	326,700	351,800	390,000	448,000	494,600
	16	241,100	281,400	333,200	358,400	397,000	455,800	501,600
	17	246,700	288,800	339,600	364,700	403,800	463,600	506,400
	18	252,300	296,000	345,500	371,000	409,800	471,300	510,600
	19	258,100	302,900	351,500	377,100	414,500	478,300	514,500
	20	263,600	309,900	357,300	382,700	418,700	483,000	518,200
再任用職員以外の職員	21	268,600	316,800	363,100	388,000	422,900	487,100	521,900
	22	273,700	322,900	368,700	392,900	426,700	490,700	525,600
	23	277,900	328,800	373,800	396,800	430,100	493,900	529,200
	24	282,300	334,600	378,800	400,200	432,700	496,900	532,800
	25	286,400	340,100	382,900	403,400			536,400
	26	290,500	344,000	386,200	406,700			539,900
	27	294,000	347,400	389,200	409,600			543,400
	28	297,200	350,400	392,000	412,100			546,900
	29	299,700	353,100	394,800				550,400
	30	301,800	355,200	397,500				553,900
	31	303,600	357,200	399,900				557,400
	32	305,500	359,200					560,900
	33	307,500	361,100					564,400
	34	309,400	363,200					567,900
	35	311,300	365,300					571,400
	36	313,200	367,500					574,900
	37	315,000	369,900					578,400
	38	317,100	372,200					581,900
	39	319,100						585,400
	40	321,200						588,900
	41	323,100						592,400
再任用職員		237,300	270,500	277,900	289,400	312,400	354,000	385,200

指定職俸給表

号 俸	俸 給 月 額
	円
1	580,000
2	644,000
3	713,000
4	793,000
5	854,000
6	917,000
7	1,003,000
8	1,082,000
9	1,160,000
10	1,242,000
11	1,317,000
12	1,345,000

## 公務員制度改革に関する報告の骨子

人事院の果たしてきた役割と反省を踏まえつつ、現在進められている公務員制度改革が向かうべき基本的方向と今後改革を進めるに当たっての留意点等について意見を表明

### 1 公務員制度に対する国民の批判と課題

行政の信頼確保のためには、国民の批判に正面からこたえることが出発点。セクショナリズム、キャリアシステム、退職管理（天下り）、年功主義などの是正を改革の共通認識とする必要

### 2 公務員制度改革が向かうべき基本的方向

国民全体の奉仕者としての公務員の確保・育成

- ・ 知識より問題設定能力、多角的考察力を重視する採用試験改革
- ・ 退職管理の内閣への一元化と在職期間の長期化
- ・ 具体的な数値目標の設定などによる幹部公務員の人事交流の推進
- ・ 不祥事の防止、国民全体の奉仕者としての意識を徹底する研修 等

キャリアシステムの見直し

採用時の1回限りの採用試験の別による固定的な人事管理の弊害等を踏まえ、新たな中核人材の選抜・育成システムの構築に向けた検討が必要

公務組織における専門性の強化

外部専門家を積極的に登用する必要。公務部内においても、スペシャリストとして活用されるキャリアパスを用意し、シンクタンク等との人事交流など専門性を磨くことのできる機会等を付与

職務・職責を基本とした能力・実績主義の確立

職務・職責を基本に能力・実績を重視した給与制度の構築とそれを可能とする新たな人事評価制度の導入

個人を重視した人事管理の推進

多様な人材の活用と個人の価値観を尊重した人事管理

- ・ 女性国家公務員の採用・登用の推進
- ・ フレックスタイム制、短時間勤務制など多様な勤務形態の導入を検討する必要
- ・ 非常勤職員の制度的整備の検討が必要

### 3 現在進められている公務員制度改革

現在進められている公務員制度改革を国民の期待にこたえた、より実効的なものとするには、具体的な制度設計に当たって上記の基本的方向に留意するとともに、以下の点を踏まえた更なる検討が必要

- ・ 国民全体の奉仕者として中立公正に職務を遂行するという基本理念が改革の原点
- ・ 有識者を含む各方面のオープンな議論や、各府省当局、職員団体との十分な意見調整が必要

- ・ 各府省の人事権の行使に当たっては、公務員が全体の奉仕者として中立公正に職務遂行を果たし得る枠組みが機能することが重要
- ・ 民間企業への再就職の大臣承認制や各府省幹部候補職員の集中育成制度等については、セクショナリズムの助長にならないよう検討する必要
- ・ 採用試験の企画立案については、内閣と人事院が適切な役割分担をすることが適当。合格者の大幅な増加については、慎重な検討が必要
- ・ 公務員の勤務条件について、憲法が要請する労働基本権を制約する以上、代償機能が適切に発揮される仕組みが確保される必要

## ＝受賞＝

### 二俣正美教授 高温学会溶射特別賞を受賞

(機械システム工学科)

機械システム工学科二俣正美教授は5月、大阪で開催された平成14年度高温学会第27期通常総会において、平成13年度高温学会溶射特別賞を授与されました。この賞は溶射関連分野において優れた業績をあげた研究者に対して授与されるもので、二俣教授の長年にわたる研究の独創性や新規応用分野の開拓など輝かしい功績が高く評価されたものです。主な業績を列举すると、騒音解析によるプラズマジェットの手動解析、聴力保護指針と消音装置の開発、耐熱性に優れた高剛性制振材料、超高速切削用メタルボンド砥石の創製、電磁波シールド・撥水・抗菌機能を有する環境対応皮膜の創製、木質系・セメント系材料の表面改質と高機能化、液相溶射法の開発など枚挙にいとまが無いほどであります。特に液相溶射法は新規開発のホローカソードを採用したプラズマジェットトーチにより液相・コロイド溶液の適用を可能にしたものです。これによりサブミクロンレベルの緻密で滑らかな薄膜創製を可能とした画期的な技術であ

り、これらの顕著な業績により1997年には岡田科学技術賞を授与されております。

一方、これらの溶射技術向上に関する産学官の研究プロジェクトを多数組織・推進し、その成果の多くは既に民間に技術移転されています。このように溶射技術の普及や民間企業の活性化に大きく貢献して来た功績も今回の受賞で高く評価されたポイントです。

一般に構造材料は強度や靱性といったバルクの要求特性に対し、耐摩耗性・耐食性・撥水性・抗菌性など表面に要求される特性・機能は両立するとは限りませんが、二俣教授が開発された溶射による表面改質技術は殆どあらゆる材料に適用可能であり、材料の適用範囲を無限に拡大するものと言って過言ではありません。現在も精力的に研究開発を遂行中であり、その高い意欲と独創性は衰えるところを知りません。この度の受賞を皆様と共に喜びすると同時に、これを契機に更なる飛躍を遂げて頂きますよう祈念致します。

## 伊藤知恵子助手 国際電波科学連合総会で Young Scientist Award を受賞

(電気電子工学科)

このたび、電気電子工学科助手伊藤知恵子氏は、国際電波科学連合 (International Union of Radio Science、略称 URSI) の第27回総会 (オランダ、マーストリヒト市で、本年8月17日～24日開催) において、Young Scientist Award を授与されました。

URSIは、国際学術連合 (International Council of Scientific Unions、略称 ICSU) の傘下であり、多くの学会に分かれている電波、電気通信および電子科学分野の研究の連絡と推進を図る唯一の国際学術団体です。我が国は、分担金を支払って加盟しており、日本学術会議電波科学研究連絡委員会が対応しております。総会は3年に1度開催され、研究の進展状況や将来方向、国際協力、他の研究組織との強調などに関して討議が行われます。

Young Scientist Award は、総会において論文を発表した35歳未満の若手研究者の中から選抜された、非常に広範囲にわたる URSI の全研究分野からの約100名 (今回我が国は7名) に対し授与されております。受賞対象論文は「C.Ito and Y.Hosoya, “The thunderstorm ratio as a

regional climatic parameter : Its effects on different-integration-time rain rate conversion, rain attenuation, site-diversity and rain depolarization,” (invited paper)」であり、世界中に無線回線を構築する際に、それぞれの地域における地域気候パラメータを考慮して、高品質で経済的な無線回線設計を行う基礎を提供するものであります。8月19日夜、1664年に完成し現在も使用されている市庁舎ホールにおいて、受賞者のためのレセプションが盛大に行われました。

また、YSA 受賞者の中から1名に Philips Best Young Scientist Paper Award が贈られることになり、URSI の10Commission (分科会) から1名ずつの候補者が推薦されました。伊藤助手はその10名の一人に選ばれ、Evaluation Panel において、3分の発表と5分の個別口頭試問を受けましたが、残念ながら受賞には至りませんでした。

この Award は、電波科学の分野の若手研究者にとって、非常に名誉なものであり、これを契機として、伊藤助手にはこの分野における一層の活躍が期待されます。

## ＝学会等＝

## 電気学会研究会開催の報告

電気電子工学科教授 谷本 洋

平成14年7月4日～5日の2日間にわたって、電気学会電子回路研究会が本学を会場として開催されました。7月の北海道ということが人気を呼んだのか、本学からの3件を含めて発表件数が28件と、電子回路研究会歴代2位の発表件数でした。参加者数も両日とも50名を超え、大変盛況でした。

発表の内容は、太陽光・風力エネルギー利用のための電子回路やDC-DCコンバータから、フィルタ、発振器、ミキサ、AD変換器などの伝統的な回路の新しい発展、ニューラルネットワークや電子回路の自動合成の問題まで非常に広範囲にわたり、それぞれの発表に対して熱心

な討論が行われました。中でも、アナログICの低電圧動作化・低消費電力化に関する議論に重点があったように見受けられました。この方向は私たちの研究テーマにも重なりますので、活発な議論から得るところが少なくありませんでした。

さらに、初日のプログラム終了後の懇親会も50名を超える参加がありました。夜の部も全国から集まった研究者や学生の交流で非常に盛り上がり、研究会のもうひとつの目的も大いに達成されました。

最後に、今回の研究会開催に当ってご理解ご協力を賜りました学内各位に御礼申し上げます。

## ＝諸報＝

## 学長主催特別講演会の開催

(総務課)

去る7月22日(月)に、福井大学長 児嶋眞平先生をお招きして「教育・研究の高度化と国際化をめざす福井大学工学部の取組み」と題して、学長主催特別講演会が行われました。

児嶋学長から、独立専攻科「ファイバー・アメリニティー工学専攻」の設置による大学院の充実、学術交流協定校の飛躍的拡大による国際交流の発展、遠赤外線領域開発研究センターの設置により遠赤外線の研究が世界のトップレベルになったことなど福井大学工学部の取組みについて約2時間にわたり講演をいただきました。

学長を始め約40人の教職員は、熱心に聞き入っていました。





## 「おもしろ科学実験」開催

(総務課)

楽しい実験やもの作りを通じて子供たちに科学の魅力を知ってもらうことを目的として、去る8月10日(土)、平成14年度の本学地域開放特別事業「おもしろ科学実験」が開催されました。

「おもしろ科学実験」は、昨年、一昨年に引き続き3回目の実施となり、実施詳細の公表と同時に多数の申込みがあり、受入れ人数を大幅に上回る大好評ぶりでした。

実験は体育館を会場として、午前10時及び午後2時からの2回行われ、網走管内の小・中学校及び夏休みの帰省を利用した千葉県や東京都の小学校など75校から355名の参加がありました。子供たちは15の実験テーマ別に分かれ、本学教職員の解説や学生の指導のもと真剣な眼差しで2時間あまりの実験を行いました。

実験終了後は、テーマ責任者から修了証書を受取り、夏休みの一日を「一日科学者」として満喫した様子でした。



化石を見つけようと一所懸命

### ■実験テーマ■

<b>機械システム工学科</b>
2足歩行ロボットを作ろう
音を作って遊ぼう
紙飛行機から学ぶ飛行のしくみ
①流水のスタンドグラス ②熱を目で見よう
<b>電気電子工学科</b>
モーターを作って動かしてみよう (静電気モーターとリニアモーター)
炭で電池を作ってみよう
<b>情報システム工学科</b>
コンピュータでロボットを動かしてみよう!
ゲームマシンもりっぱなコンピュータなのだ!!
<b>化学システム工学科</b>
におい、色をとろう
くだもので電池をつくらう
<b>機能材料工学科</b>
金属に「形」を勉強させよう
色が変わる魔法の液体を作ろう
<b>土木開発工学科</b>
磁石を使って水の流れをとめよう
道路のすべりをはかる!!
大地を見てみよう!



僕のロボットは歩くかな?



マシンの作り方の説明に聞き入る子供たち!

## 遠山文部科学大臣来学

(総務課)

去る8月20日(火)、遠山文部科学大臣が本学に来学されました。

本学では、地域共同研究センターにおいて大型ソーラーシミュレータ、低温室及びメタンハイドレートの燃焼実験を視察された後、学長室において学長、副学長、附属図書館長及び事務局長と本学の概要説明に始まり教育の特徴及び研究の内容等多岐に渡る懇談が行われました。

なお、文部科学大臣が本学を訪問されるのは開学以来初めてのことです。



## 北友会主催レクリエーション行事

北友会実行委員会

昨年までは、夏休み直後の7月中～下旬にスポーツ大会、8月初めに夏祭りを実施して来ましたが、今年から夏休み開始が8月12日と約1ヶ月遅くなったため、お盆明けの8月22日に「夏祭り」を行いました。なお、スポーツ大会としてミニバレーボール大会を、7月29日～8月9日に行いました。

### 7/29～7/31 ミニバレーボール大会

今年は、Aブロック(平均40才以上)7チーム、Bブロック(平均40才未満)6チームの合計13チームで、例年より少ない参加となりました。また、期間も予定よりも短く3日間で終了しました。結果を以下に書きます。

#### Aブロック

- 優勝 会計課スペシャルダンサーズ
- 準優勝 教務・入試チーム
- 3位 スーパーキカイダース
- 4位 情報A

#### Bブロック

- 優勝 スーパーライダーズ
- 準優勝 電気電子A
- 3位 ショムニFINAL

### 4位 情報B

結構熱戦が繰り広げられ、ミニバレー愛好家も相当数居られると再認識しました。体育館へ足を運ばれたことの無い方は、一度観戦することをお勧めします、結構熱くなっています。

なお、今スポーツ大会において、一人もけが人が出なかったことは幸でした。

### 8/22 夏祭り

屋外行事で一番の悩みの種は、天気です。例えば、今夏の北見の天候は不順続きで、小学校と中学校の運動会両方とも雨模様だったので、せめて、夏祭りは晴れてほしいと願ったのですが、4日程前から低温、雨曇りが続いて当日も肌寒いくずついた天候となりました。しかし、担当者の機転で会場を生協食堂に移して実施いたしました。

北友会会長の常本学長の挨拶をいただき、スポーツ大会の表彰式、そして、北友会副会長の内務局長の乾杯で夏祭りが始まりました。

なお、会場を屋外から屋内へ変更するにあたり、種々の制約より内容などの変更を余儀なく

されましたが、ゲームは替わりにじゃんけんを実施し、焼き物は屋外テントで行い、随時実行委員が会場内に運び入れたため、問題にはなりませんでしたが。なお、今夏祭りの飲み物・食べ物は例年通りの物を準備しましたが、担当者の発案で急遽メニューに加えた、ミソおでんは好評で、およそ30分程で無くなり嬉しい誤算でした。

一通り飲み物、食べ物が行き渡った頃、余興の子供じゃんけん、ビンゴゲーム等を消化していきました。

各余興の司会は、実行委員が分担しましたが、



スポーツ大会表彰

普段は見られない以外な名調子を發揮されスムーズに進行して行きました。なお、余興でのエピソードとして、ビンゴで何と就任1年目の常本学長が一番を取りました。

19時30分となり予定時刻より少々早くなりましたが、後片付けの関係で閉会となりました。

来年は、もっと多くの職員が参加する事を願っています。

最後に、今回の各行時にご協力頂いた関係各位の皆さんに感謝申し上げます。また、額に汗して働いて頂いた実行委員の皆さんご苦労様でした。



勝ち残るのは誰？（おとなジャンケン）



本学化学システム工学科赤塚邦彦教授は、平成14年8月6日午前11時5分、肺ガンのため御自宅にて急逝

されました。享年58歳でした。ここに、慎んで御冥福をお祈り致します。

葬儀（通夜：8月7日午後6時、告別式：8月8日午前10時）は北見市常盤町のセレモニーホールいいだ市民斎場にて、学科葬の格式をもってしめやかに盛大に執り行われました。本学常本秀幸学長には葬儀委員長をお務め頂き、町内会の方々や本学の事務の方々には献身的なお手伝いをして頂きました。本学の方々からは御丁重にもたくさんの御香典、花輪等を頂戴致しました。皆様には、本紙面をお借り致しまして心より厚く御礼申し上げます。

赤塚先生は、昭和43年3月に室蘭工業大学大学院工学研究科修士課程を修了され、同年4月に本学の助手として着任、その後、昭和51年4月に講師、52年4月に助教授、平成2年4月に教授に昇任され今日に至りました。この間、一般教育の化学や化学システム工学科の分析化学等の講義を担当され、学生の教育と研究には人一倍の情熱を注いで来られました。分析化学の研究では、平成元年、「原子吸光法による超微量金属の定量に関する研

## 訃報

究」によって、北海道分析化学会賞を受賞されております。また、研究成果は、アメリカ化学会の Analytical Chemistry を始めとする一流雑誌に数多く発表されております。

先生は、昨年12月頃から体調を崩され、本年1月からは札幌の病院に入院されておりました。しかし、6月末には退院され、元気な御姿を見せておられました。それだけに、突然死去の知らせを受けたとき、私共一同は大変驚きました。今後、独立法人化やJABEE対応等、本学科は多難な時代を迎えます。赤塚先生には、本学科の中心的な存在として、学科の運営にもさらなる御活躍を期待していただけない、その突然の御逝去には惜しんでも余りあるものがあります。先生を失った本学科の痛手の大きさはとても筆舌には尽くせませんが、今は先生の死を現実のこととして受け止め、学生の教育と研究指導を分担しながら御意志を受け継いで行く所存です。ここに衷心より哀悼の意を表し、御冥福をお祈り致します。

なお、故赤塚先生には、在職中の工学教育・研究に関する実績と専門学会並びに関連産業分野の発展への寄与が大であるというご功績により、8月27日従四位勲四等旭日小綬章を授与されました。この栄を併せてご報告させていただきます。

（化学システム工学科）

## ＝規程＝

## 北見工業大学地域支援連携室設置要項

平成14年7月12日

北工大達第20号

## (設置)

第1 北見工業大学(以下「本学という。」)に地域支援連携室を置く。

## (目的)

第2 地域支援連携室は、本学における地域貢献の組織的・総合的な取組み及び地域自治体等との真のパートナーシップの確立を図り、本学における地域貢献に関する事業(以下「地域貢献特別支援事業」という。)を推進することを目的とする。

## (業務)

第3 地域支援連携室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 地域貢献支援体制の整備に関すること
- 二 地域貢献特別支援事業の企画立案に関すること

## (組織)

第4 地域支援連携室は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

- 一 副学長(総務・研究担当)
- 二 副学長(教務・学生担当)
- 三 地域共同研究センター長
- 四 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
- 五 その他学長が必要と認める者

## (室長)

第5 地域支援連携室に室長を置き、副学長(総務・研究担当)がこれに当たる。

- 2 室長は地域支援連携室の業務を掌理し、室員会議を招集する。
- 3 室長に事故あるときは副学長(教務・学生担当)がその職務を代理する。

## (庶務)

第6 地域支援連携室に関する庶務は、総務課において行う。

## (雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

## 附 則

この要項は平成14年7月12日から実施する。

## 制定理由

地域支援連携室を設置することに伴い、必要事項を定めるもの

## 北見地域連携推進協議会要項

平成14年8月1日 制定

### (設置及び目的)

第1 北見地域連携推進協議会(以下「協議会」という。)は、北見工業大学と北見市及び周辺自治体、公共機関等が有機的に連携協力し、地域の発展に向けた具体的な取り組みや方策を協議し、その為の事業を一体的に企画立案することを目的として設置する。

### (業務)

第2 協議会は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 地域の生涯学習の充実や振興に関し協議し企画立案すること。
- 二 地域の人材育成や産業の振興に関し協議し企画立案すること。

### (組織)

第3 協議会は、次の各号に掲げる機関等からの推薦者をもって組織する。

- 一 北見工業大学
- 二 北見市
- 三 社団法人 北見工業技術センター運営協会
- 四 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター

### (会長)

第4 協議会に、会長を置き、北見工業大学地域支援連携室長がこれに当たる。

2 会長は、協議会を招集し、その議長となる。

3 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した者がその職務を代行する。

### (協議会)

第5 協議会は、委員の3分の2以上の出席をもって開催する。

第6 議事は、出席した委員の過半数の同意をもって決する。

第7 委員に事故あるときは代理者を出席させることができる。

第8 会長が必要と認めるときは、委員以外の者を協議会に出席させ、説明又は意見を求めることができる。

### (事務)

第9 協議会に関する事務は、北見工業大学総務課及び北見市商工部産業振興課が連携して行う。

### (雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

### 附 則

この要項は平成14年8月1日から実施する。

## = 日誌 =

( 総 務 課 )

- |      |  |      |                                 |
|------|--|------|---------------------------------|
| 7月1日 | 平成15年度編入学(学力)願書受付<br>(6月26日~7月2日)              | 8月1日 | 第651回教授会(臨時)                    |
| 4日   | 電気学会電子回路研究会の開催<br>(~5日)<br>第2回客員教授特別講演会        | 10日  | おもしろ科学実験                        |
| 5日   | 第4回独立行政法人化問題WG                                 | 12日  | 夏季休業日(~9月30日)                   |
| 8日   | 人事委員会<br>平成15年度大学院博士前期課程及び<br>後期課程願書受付(~7月12日) | 18日  | 韓国慶尚大学校工科大学との短期交<br>流研修(~8月25日) |
| 10日  | 編入学(学力)試験                                      | 22日  | 北友会夏祭り                          |
| 12日  | 総務委員会  | 26日  | 大学院博士前期課程入学試験(学<br>力)           |
| 16日  | 入学者選抜委員会                                       | 27日  | 大学院博士前期課程入学試験(面<br>接)           |
| 17日  | 第650回教授会<br>編入学(学力)合格発表                        | 28日  | 大学院博士後期課程入学試験                   |
| 22日  | 学長主催特別講演会                                      |      |                                 |
| 23日  | 第5回独立行政法人化問題WG                                 |      |                                 |
| 24日  | 附属図書館委員会                                       |      |                                 |
| 25日  | 産学官連携推進員会議                                     |      |                                 |
| 26日  | 第2回大学改革特別委員会                                   |      |                                 |
| 27日  | 高校生のための大学説明会                                   |      |                                 |
| 29日  | 前期定期試験(~8月9日)                                  |      |                                 |
| 31日  | 第5回運営諮問会議                                      |      |                                 |



この学報は再生紙を使用しています。